

## 2006年度日本経済学会秋季大会 報告論文

セッション： 医療2 10月21日 16:00 - 17:30

### Welfare Analysis Incorporating a Structural Entry-Exit Model: A Case Study of Medicare HMOs

丸山 士行\*1

ノースウエスタン大学

経済学研究科博士課程

競争促進を目的とした政府による補助金の妥当性は必ずしも自明ではない。産業組織論における理論研究の成果によれば、参入退出が完全に自由な場合の参入数は社会厚生上最適な参入数とは必ずしも一致せず、特に差別化された製品の市場においては、参入数は過少にも過大にも成りえることが分かっている。従って、政府が参入を奨励し競争を促進するために（あるいは参入を抑制するために）なんらかの市場介入をすることの是非は、個々の産業・市場において実証的に検証されるべき課題である。

本稿では、米国のメディケアHMO\*2 産業を分析対象とし、既存の差別化された市場の需要推計モデルに参入退出の意志決定を明示的に扱った供給側のモデルを組み合わせることで、この問題を実証的に検討するための分析枠組みを提示する。シミュレーションを利用した厚生分析を行った結果、次のような結果が得られた。まず、現在のメディケアHMOプログラムが創出している社会厚生は2004年一年間で103億ドル程度である。次に、政府からHMOへの支払単価を一律に25ドル程度引き上げると社会厚生を上昇させる。最後に、HMOの参入が過大であるという事実は観察されなかった。

政府のメディケアHMOプログラムへの支出超過が批判の対象となり久しいが、政策担当者は政府の支出を均衡化する支払水準が必ずしも社会厚生上望ましいとは言えないことに留意する必要がある。補助金、参入、競争などによる厚生効果を数量的に検証できる実証分析を踏まえて政策決定をしていくことが肝要である。

キーワード： 厚生分析、競争政策、参入退出、メディケア、HMO、医療保険

\*1 E-mail: [shiko@northwestern.edu](mailto:shiko@northwestern.edu) Website: <http://research.tigrou.jp/>

\*2 メディケアとは米国の高齢者向け公的医療保険プログラムである。HMO (Health Maintenance Organization)とは民間医療保険会社の1形態であり、いわゆる「マネジドケア」の代表的形態である。メディケアは自らが公的な医療保険を提供すると同時に、民間の医療保険会社の参入も制度化している。これらのメディケアに参入している民間保険会社の大多数はHMOであり、メディケアHMOとよばれている。